

## <卒業論文要旨（昭和45年度卒業生）>

### 宇都宮市の都市化と都市機能

安西久子

東京から100 Kmという位置にある北関東の宇都宮市は、人口停滞気味である栃木県内で人口増加を示し、「準発展的都市」ともいわれている。これは宇都宮市の従来から都市機能・性格など如何なる関係にあって現象してきたのだろうか。本論文では宇都宮市の人口動態・産業構造・市内地域分化について考察を試みた。

①都市発展の基本要因の一つである人口増加を見ると、昭和30～35年が5.2%、35～40年が11.2%の増加率を示し、35年以降は県内からの転入と同時に県外からの転入も増加している。これらの人口増を市内で見ると、市中心部は減少傾向にあり、旧市内周辺、平石、国本、雀宮、横川、姿川地区は35年以降とくに増加している。

②都市機能を産業別人口構成、生産所得、事業所数から考えると、県内他都市と比較して商業機能、行政機能が重要である。

商店街は国鉄宇都宮駅前～伝馬町付近にとくに集中している。仕入先は卸、小売ともに東京からが多く、販売先は県内に限られている。

小売業をとりあげてみると、中心商店街は馬場町、オリオン通りを中心とした地域で、衣料品、身回品が買われることが多く、周辺商店街は消費者の地元又は附近の町内に限られている。中心商店街付近の地区を歩行交通量と来街者の行動のアンケート調査から考察してみよう。歩行交通量は平日より日曜が多く、男性より女性が多いが、馬場町、二荒通り、オリオン通りではそれが著しい。通行者のうち買物を目的とする者は全体の7割を占めている。来街の必要運賃では昭和42年時点で150円圏内に入る地域で県内一円にわたる。しかしこの商店街は一日おきの来街や無償来街が全体の約3割を示しているところから、純粹の買回性商店街というよりも、最寄性買物をも含めた商店街の性格をもつものといえよう。商店街の中心地は歩行交通量・商店の業種別構成からみて馬場町・オリオン通りであるが最近では池上町にまで伸びている。戦前の中心地であった日野町は卸売商店・倉庫が多くなり、小売商店の中心地の西進がみられる。

③産業別人口では、第二次産業は県平均と同程度の率であるが、昭和39年以降は工業団地の誘致企業の操業が開始され、生産出荷額が増大しつつある。この工場誘致は首都圏整備計画により推

進されたが、宇都宮市にとっては戦中の工業近代化に続く第二の近代化といえる。立地条件には、地価、交通事情、労働力の存在、東京と東北との結節点という位置などがあげられる。

④市街地の拡大は東部の台地への飛地的発展が著しく、西北、南方向への拡大も見られる。次に地域分化を土地利用図、航空写真から考えると、中心部は国鉄宇都宮駅～東武宇都宮駅間の東西に細長い地域で、その地域内で更に官庁地域、業務地域、娯楽地域、商店街に分化している。この中心部周辺には住宅地、商工業混合地域が隣接し、更に農村との境界には工場、倉庫が存在する地域が見られる。

## 神奈川県の密柑栽培

伊 坪 美知子

論文の目的は神奈川県の密柑栽培の立地上の特質を考察することである。密柑といっても、日本の柑橘の経済品種が温州みかんを中心としていて、雑柑類の比重は低いため、本論においては温州みかんのみ取り扱い。調査地域は神奈川県の密柑栽培地を全て含む。

柑橘は熱帯の原産であるため、気温を主とする気候の制約を受けるが、温州みかんは日本の特産で、耐寒性があるため、九州から茨城県に至るまで広く栽培されている。神奈川県は経済的大産地として北限にあたる。果樹生産の農業における地位は面積にして4.5%、農業粗生額にし6.9%であるが、うち温州みかんは面積で1.8%を占め、今後とも益々、その生産は増加するとみられ、傾斜地利用の経済性と共に、果樹生産においても、日本農業においても、小規模ながら重要な位置を占める。

神奈川県は水田適地が少なく、自給的畑作地帯であったが、江戸末期の横浜開港以来、西洋野菜を中心とする都市近郊蔬菜地帯へと変わり、その中で傾斜地利用作物として千年以上の歴史を持つ柑橘栽培地への新しい品種として温州みかんが導入され、小田原近傍の漁村、山村を中心として広がっていった。昭和30年までは全国五位の生産を誇っていたが、西南暖地の新植ブームにより、新植適地の少ない神奈川県の地位は低下し始め、昭和43年度は10位であった。

県内の柑橘栽培地域は農家の経営形態、出荷期等からみて、七つの地域に分けられるが、これらの地域差をもたらしたものは、気候条件の微妙な差ではなく、むしろ地域の文化性、大都市への交通位置、競合作物の存在、他産業からの労働力吸収等であると考えられる。

神奈川みかんはその立地上、三つの特質を持っていると考えられる。①北限地域のみかんとして酸味が強いこと、②都市近郊に位置するため大市場に近いが、反面、都市化の影響が著しいこと、